

「まっさか」を、 変えなあかん。

今の「しがらみ松阪市政」でいいですか？
一人ひとりの「当たり前幸せ」を守ります。

財政の厳しさを理由に、

「いのち」に関わる**福祉・医療の費用**が削られ、

路線バスが十分に行き届かず、

コスト削減のため保育園の民営化が検討されています。

しかし**その一方では**、

駅西開発においては約100億円計画が進められてきました。

市民の声を生かさないホテル・マンションを中心とした

ハコものづくりだけの中心市街地活性化は、

30年先の子ども世代にまで傷跡を残します。

皆さんの税金からの「お金の使い道」の優先順位について、

一緒に**考**えませんか。

山中光茂
のマニフェスト
yamana kamitsugu
manifesto



**必ず実行します！
「次の世代」まで責任をとります。**

山中光茂



松阪を変える 山中光茂の **8** つの決意

① 「いのち」と「痛み」を政策の最優先にします！

市長が決める「政策の優先順位」で、市民の生活のあり方は変わります。

私は松阪市においては、日本中のどの地域よりも「いのちの重み」が最も重んじられる、地域づくりが必要だと思っています。痛みが大きい人が「当たり前の幸せ」をつかめる社会を創ります。

② 合併後の地域に「地域の輝き」を取り戻します。

新松阪市として合併した、旧飯南郡と旧一志郡の地域においては、合併後多くの「痛み」が出てきています。地域のことは地域の人々がだれよりも理解しているにもかかわらず、どの地域もすべて同じ「松阪市」として扱われては、「地域の輝き」が失われます。地域振興局の強化など、「地域の声」をなにより優先させた地域づくりを行います。

③ 女性や高齢者の皆さんが頑張れる社会にします。

少子高齢社会が進むにつれて、街全体が元気になるためには、女性と高齢者の社会参加がさらに進む事が不可欠です。女性や高齢者が働きやすい環境づくりや、地域活動への参加がしやすい空気づくり、また、市政への意見が反映されやすい体制をつくります。

④ 次の、次の、次の世代まで責任を持ちます。

33歳で市長になれば、30年先にもその政治の「善し悪し」の審判を受ける事ができます。常に「次の世代への緊張感」を持って政治に取り組みます。また、次の世代を育てる子育てや教育は、「財源が無いので出来ない」とは言えない分野です。「松阪のよさ」を「子どもの、子どもの、子どもまで」託していけるような子育て／教育環境をつくります。

マニフェスト(皆さんへの約束)とは

市民の皆さんの目を見て、また、次の世代の子どもさんの目を見て、今政治で行っていることはどうしても必要なことなんだよと、自分自身にも目の前の瞳にも恥じずにきちりと説明ができる。そんな政治をしなくてはいけないと思っています。

このマニフェスト(皆さんへの約束)は、明日の松阪、そして子どもさん、お孫さんの世代の松阪をどのようにしていくかを、提示させていただき、何があっても「このことはやり抜く」という決意のもとにつくった「皆さんとの契約書」です。

この約束が実行できるかどうかを皆さんにチェックしてもらうためにも、市の政治が「何をしているのか」を常に分かりやすく情報を開示して、いつも皆様から、批判やご意見をいただける市政にしていきます。

⑤ 市政が「小学校5年生」にもわかるよう説明します！

市政の中で行われていることが市民に伝わるのが第一です。市政の中身を市民が知らなければ、批判も、声を出す事もできません。「小学生」にもわかるような言葉で、今市政で何が行われていて、どのような選択肢があるのかがしっかりと明示され、その上で市民からの声がかかり聞けるような制度づくりがまず必要です。

⑥ 補助金をゼロから見直し、予算は使いきりません！

本当に必要な補助金かどうかを毎年考えず、「これまで出していたから」という理由だけで出されている補助金がないかどうか、一度すべてをゼロベースで考え直します。そして、本当に必要なことに、必要なだけ使えるようにすることが大切です。予算も、毎年年度末に無理に使い切らず、効率化により余らせればその部署の評価が上がるような市政運営をします。

⑦ 市民の声が不可欠！「気持ちよさ優先の街」を創ります。

駅前にホテルやマンションを作るだけの中心市街地活性化の案は一度白紙にもどし、改めて本当の市民の声や様々なアイデアを生かす「街づくり計画」を迅速に創ります。駅前からずっと街を歩いて歴史や文化を感じられるような「街の一体感」を持たせることを支援したり、また、自転車タクシーやレンタサイクルなどをサポートし、動いて楽しい街づくりを行います。「箱もの優先」から「気持ちよさ優先」にします。

⑧ 国や県から自立した「松阪モデル」を創ります。

「国や県の補助金が出るから事業を行う」とか、「国の補助金がかットされたので大切な事業ができない」とか、そんな理由で市民の生活が左右されてはいけません。夕張市のようにならないためにも、必要が無い事業は、国からの支援があってもノーと言う勇気を持ち、必要な事業は逆に、松阪独自に国や県に先駆けて行う。そんな全国に誇れる松阪市を創ります。

松阪市庁舎前に 「借金時計」を設置します。



なぜ？

市民も市職員も松阪市の財政状況の厳しさを、常に意識しているでしょうか？

実は松阪市の財政は、大変な事になっているのです

地方債残高(一般会計+特別会計+企業会計) = (借金額)

1,287億8,600万円

何と、市民一人当たり

(平成20年度見込み)

75万1,153円の借金

があります。



この状況で、空港への高速船への5000万円の支援や、駅前にホテルやマンションの建設が本当に必要なんでしょうか？

640億円の借金で財政破綻した夕張市では、税金、医療費、水道料金などが値上がりしています。松阪市もそういう状況に近づいていると思いませんか？

このままでは、次の世代にも負担を負わせる事になります。

市政をこれまでの**しがらみから脱却させ**
抜本的に改革することが必要です。

山中光茂はやり抜きます。

山中光茂は「抜本的な改革」で 松阪を建て直します!!

1300億円の借金を抱え、今後、少子高齢社会がますます進むなかで、松阪市がこれまでの行政システムのなかで財政建て直しを行い、行政サービスを提供することは不可能です。一方で、国・地方あわせて1000兆円を越える借金（国民一人あたり800万円）を抱える国や県に対して、これまでと同様に助けてもらうことは期待できません。「国や県が助けてくれないからできない」と嘆くのではなく、今必要なのは松阪市が決して華美な都会的な街でなくとも、自立した「日本一素敵な田舎まち」になることを市民の手で作りにあげていくことです。「新しい自治体経営の姿」を市民とともにしっかりと議論をして、国や県から自立した「松阪市民」と協働しながら、本当に市民が求めているニーズに応じた行政サービスを充実させていくことで、「次の世代にまで責任がとれる政治」を行っていきます!

1 市役所職員

能力を高め、適切な配置で機能強化。

能力や専門性を高める研修の強化と適切な配置による機能強化。また、地域の実情をよく把握している地域振興局の機能強化による市政運営効率化。

2 民間企業

「民間の力」を高め、行政効率をあげる。

企業誘致を進めるとともに、行政業務の民間委託や民営化を推進し、行政効率をあげる。一方で「公」の最低限の役割を明確化する。

3 市民

市民活動支援で「地域の底力」アップ。

NPO活動、市民活動を強化する後押しをして、「地域の底力」をアップさせる。具体的には市民税の1%を市民活動支援にまわし、行政機能の一部を「市民」に委ねる。

4 「もうける市政」と「ムダゼロ市政」

「税金と借金」に頼るこれまでの受け身の市政運営から、市が積極的に「お金をもうける」努力をする政治を行う。一方で、補助金の全面見直しと予算使い切りをやめることで、市民が納めた税金を一円たりとも無駄にしない体制をつくる。

市職員の適切な配置とやる気の向上、民間企業や市民の能力が発達できるシステムに移行していくことで、市の行政は、より市民の生活に密着・不可欠なサービスに特化できるようになる。そして、「もうける市政」と「ムダゼロ市政」を徹底することで、その分をこれまでの市の借金の返済に充てるとともに、次世代育成や「いのち」を大切にす政策、街作りなど地域活性化の費用に使えることになり、より「市民の要望への投資」ができるようになる。

◎主要政策

<市政改革>

株式会社「松阪市役所」は 市民の声で大変身。

松阪市を「株式会社」のスタイルで運営していく必要があります。株式会社に対して株を買って投資をしている人は、株主として予算・事業計画・実績・経費削減・借入金返済などを厳しくチェックをします。

そのため、企業は株主に対して、しっかりと納得のできる説明をしなければなりません。また、株主が逃げないように「魅力的な企業」を創っていく必要があります。

市政運営もそのような「企業の発想」が不可欠です。税金を払っている方々にその税金の使い道を分かりやすく説明して、松阪市に属している方々が逃げていかないような「魅力的な街づくり」をしなければいけないのです。

市民がチェックして、「市民が創りあげる松阪市」にします。



1 みんなで知ろう、市の財政状況…市庁舎前に「借金時計」を掲げる

市民や市役所職員の常に目の届くところに「借金時計」を掲げる。こうする事を通じ、市民に市の財政運営に常に関心を持ってもらうとともに、市役所職員は常に「借金」を次世代にかぶせているという緊張感のもとで市政を行うことができる。

2 あなたのご応募待っています…副市長公募と女性副市長の登用

副市長を二人制にして、職員を含めた**公募制**にするとともに、最低一名は**女性副市長**を登用する。新しい時代の新しい自治体経営に向けて、女性の役割は不可欠であり、女性の能力の発揮・活躍の場がより広がるようにする。

3 市長から始めます…市長給与 20%カット&ボーナス 50%カット

市の財政再建を主張するなら、自らの給与に手をつけなくては実行力が無い。再建が済むまでは**市長給与とボーナスは大幅にカット**する。

4 松阪市自身でかせぎます…「株式会社松阪市」スタート

松阪市が「がっちりもうける」そんな事業をしっかりと行う。「株式会社松阪市」として、経営感覚をもった市政を行う為には、税金だけに依存するのではなく、松阪市自身が「かせぐ」という意識が必要。市の公共施設に企業の名前をつける権利を売る「命名権取引」や、公用車や市の広報に企業広告をつけてお金をもらう、また、競輪事業の活性化など様々な「お金もうけ」の手段を考えて実行する。

5 アンテナをのばして…「アイデアどんどん取り入れ部」を創ります

他の地域の先進事例や市民からの様々なアイデアを取り入れ、部局を超えて話し合い、**実行していく部署を創設**する。小さな市民の声から他の地域ですでに成功した事例まで、しっかりとアンテナを伸ばし、松阪市政に生かせる部分を積極的に取り入れていく。

6 是が非でも財政改革を断行…「しがらみゼロ」チームの結成

民間企業や市民の目線で市政運営を見直し、財政改革を断行するチームをつくる。市長直轄の「**財政改革断行しがらみゼロチーム**」（仮称）をつくり、市の執行部、職員組合、企業経営者、一般市民、学者など多様な立場の方に入ってもらい、一緒になって「しがらみがない財政運営」を断固として実現する。

7 市民あつての市議会です…より身近に感じてもらうための工夫

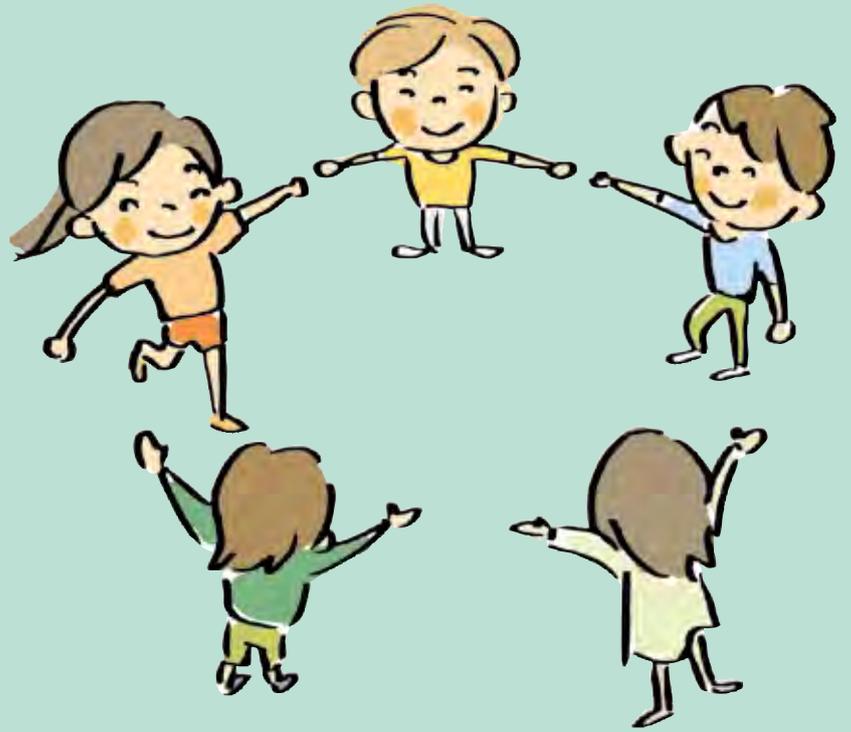
休日や夜間に議会を開催し、昼間忙しい市民にも議会を生で見てもらえる機会をつくる。また同時に、本会議や委員会活動をインターネットで中継し、より**市議会を身近に**感じてもらう、常に市民の目でチェックしてもらう。

8 市民の声を吸い上げます…市長直轄「市民の声吸収チーム」設立

市長直轄の「**市民の声吸収チーム**」（仮称）をつくり、市長のビジョンやメッセージが市民に届きやすくするとともに、市民の声を効果的に幅広く取り入れることができるシステムにする（双方向行政の実現）。具体的には、政策調整、広報、広聴（市民からの聞き取りサービス）、危機管理、秘書の各機能を一元化して市政情報が迅速にやりとりできるようにし、市長の意思による政策実現スピードのアップと危機管理体制の構築を行う。

9 一緒にやりましょう…市民が選んだ活動団体を市民税の1%でサポート

様々な市民活動を行う NPO やボランティア団体に対して、**市民税の1%で支援する制度**を創設し、各市民団体の活動を財政的に後押しする。サポートを希望する団体は市に登録を行い、市民税を納める市民が、その登録情報を基にして団体の活動に1票を投じ、投じられた票数に応じて活動費が助成される。市がこれまで行ってきた事業も市民団体に委ねて、結果として市の財政削減にもつなげる。



いま、松阪市民病院の累積赤字額は76億円で三重県内の公立病院では一番大きな赤字額になっています。

お医者さんも患者さんも来たくない病院ではなくて、まずは患者さんの立場に立ったサービスを提供して、そして、その病院で働く事が誇りに思えるような、そんな病院づくりが大切です。

地域の「いのちの要」救急医療の体制も改めて考えなくてはなりません。また同時に、地域に住む人が安心出来る福祉施設を、さらに充実する事も必要です。

障がいのある方が「当たり前幸せ」を当たり前地域でつかめるような、そして、障がいのある方がもつ、文化的な才能やスポーツ能力を最大限活かせる取り組みを進めていきます。

<医療・福祉>



「いのち」が一番。

医療・福祉の「松阪モデル」を創ります。

10 地域における「寝たきりゼロ」「介護難民ゼロ」の体制づくり

国の医療費削減の方針の中、数年後には病院の入院ベット数が大幅減少する。地域には、病院を追い出された慢性期の患者を受け入れる介護施設が無かったり、家族介護ができない場合には、「介護難民」が増える。「介護難民」はそのまま、寝たきりになりかねない。そうならない為に、「地域介護の松阪モデル」をしっかりとつくり、介護職員育成や地域での介護基盤の整備を早急に行う。

11 市民病院の「赤字ゼロ」にむけての取り組み

市民病院は三重県内の公立病院のなかで最大の76億円の赤字を抱えている。随意契約による病棟増設のつけと共に、一番の問題は、地域の中で「市民病院ならでは」の個性が無い所である。不足している医師も、病院を選ぶ患者にも「市民病院で働きたい、診てもらいたい」と思わせる病院づくりが大切である。中長期的な病院経営を、「市民病院の役割を改めて見直す」ところから始めて、全国でもきらりと輝く病院づくりを行う。

12 「いのち」が一番…地域医療・救急医療の連携体制の推進

住民の「いのち」に関わる医療福祉体制の構築を、政策形成・予算配分の上優先課題と考え、医師・看護師や介護職員不足など地域課題に対応して、「日本一のいのちが大切にされる地域」をつくる。行政、医師会、病院、地域、市民活動団体などが意見交換できる場をつくり、地域医療・福祉体制の推進に向けた条例制定も行い、100年先まで安定した全国に先駆けた「医療福祉先進地域」をつくる。

13 楽しく長生きしてください…「健康寿命日本一」のまちづくり

予防医療・予防介護を徹底することで、多くの方が医療や介護をなるべく必要としない人生を歩めるような取り組みを進めるとともに、各年代における「健康診断率」を高めることで病気の早期発見・早期治療を行い、病気の重症化を防ぐ。

「健康寿命日本一プロジェクト」を立ちあげる。具体的には、スポーツジムなどと提携をした高齢者の運動機会の増加、各地域における健康学習機会の増加、三重県平均を下回る検診率の大幅上昇への取り組みを進めていく。

14 まず早期発見、早期治療…がん対策の強化を疾患に応じて行う

乳がん検診の受診率（平成17年）は、隣の津市が30%である一方で松阪市は8%と大幅に低い。他のがんの検診率も非常に低くなっており、検診率を高めることで早期発見による重症化を防ぐことをしっかりと進めていく。

「がん対策推進条例」を推進して、がん予防、治療後の療養、心のケアなど地域、市民団体、行政、医療福祉機関などが協力してがん対策に取り組める体制づくりを行う。

15 誰にでも便利日本一…「誰もが動きやすい」「過ごしやすい」まちづくり

「ユニバーサルデザイン推進条例」を推進し、「障がい者や高齢者に過ごしやすい街は、誰もが過ごしやすい街」という考えのもとに、「動きやすい」「過ごしやすい」街づくりをする。段差のない通路や歩道づくりを徹底し、公共施設では音声や点字、触知図によるガイドや、多機能トイレの充実などハード・ソフト両面から「ユニバーサルデザインの街」をつくる。

また、障がい者への医療費補助や入院時食事代の補助を国や県の動向とは関係なく、しっかりと行う。障がい範囲を適切に認定した上で「医療の受診を無料」とする。また、障がいのある方も、文化やスポーツ分野で、能力を最大限発揮出来る環境づくりを行い、その成果を発表・顕彰できる場をつくる。

16 備えは充分ですか？…要援護者の対応を含めた危機管理体制の構築

松阪市及びその周辺地域で起こりうる大規模災害やテロなどの脅威に備えるために、様々な関係諸機関、企業、市民団体と連携した総合防災訓練を行う。また、すでに多くの地域で設立されている自主防災組織の実効性を高めるために、各地域また地域間での定期的な情報交換や防災会議を行うようにする。

地域における一人暮らし高齢者や障がい者など災害時に最優先で援護を必要とする要援護者の情報をしっかりと管理し、災害発生時にはすぐに地域単位で対応ができるようにする。

市長直属の「危機管理チーム」を設置し、市として災害時において迅速で的確な対応が取れるような体制を構築する。



<教育・子育てプラン>

「日本一子育てしやすいまち」 ってどんなまち？

子どもは「次の世代の希望」です。

30年後、50年後の松阪が魅力的であり続けるためには、今の子どもさんが安心して成長できる、「子育て／子育て」がしやすいまちづくりをする必要があると思っています。

財源がないことを理由に、子育てに関わる予算を減らすことはできません。子どもさんに松阪を愛する気持ちを持ってもらい、次の世代の松阪をより素敵に彩ってもらうためにも、松阪市を「日本一子育てがしやすいまち」にします。

17 子どもの「いのち」は何より大事…医療費助成(無料化)を小学校6年まで拡大

現行の乳幼児医療費助成の対象拡大を行い、国や県の補助の状況に関わらず、少子化対策と次世代育成の観点から、**医療費無料**の対象を小学校6年生までとする。

18 自分のまちを愛を込めて語ります…「まつさか郷土教育」の充実

私たちの「ふるさと松阪」を自分の言葉で愛情を持って語れることは、これからの松阪市を担う人材を育てていく上で必要なことである。幼少から中学において、ふるさとの歴史・文化・伝統芸能の教育機会の大幅な増加、地域の自然・文化・環境・産業などを題材とした体験学習の充実、副読本作成・活用による「まつさか郷土教育」を推進して、郷土に誇りと愛着を持てるようにする。

19 いろんな世代が交流します…「小中の交流連携教育」の推進

9年間という長期的な視点からの教育を実現することができ、生徒・教師がともに先を見据えた上での教育環境に身を置くことができる。小中の交流連携により、合同体験学習を行い、幅広い人間交流の場ができる。特に、生徒数が減りつつある中山間地域におけるその人的交流と教育継続性の重要性は高く、これまで以上に**交流連携教育**に対するサポートを強めていく。

20 安易なコストカット策にストップ…公立保育園民営化の再検討

現在各地域において、公立保育園の民営化に向けた検討が行われている。しかしながら、保護者や地域の方々への説明会は開催されたものの、そこでの理解が十分得られないままに終わっている。地域にとって、公立保育園は次世代を安心して育てる大切な場所であり、「採算性の確保」が不可欠である民間への安易な委譲は避けなくてはならない。コストカットだけを目的にするのではなく、地域性や保護者の**意向を十分考慮**した上で検討する必要がある。

21 子どもはまちの宝…妊婦健診の完全無料化と豊かな子育て支援

不妊治療や妊婦健診に対し積極的な支援を行い、安心して妊娠・出産できる環境を整える。**妊婦健診に関しては、すべての健診を無料**とする。そして、学童保育の充実や企業の出産・育児休暇サポート等、子育てを総合的に応援できる体制づくりを強化する。

22 食べることの大切さを…食育の推進

人間にとって「いのち」を守る原点ともなる「食べること」への教育は幼少期から行っていく必要がある。食育は、健康維持のためだけではなく、地域産食材への理解を通じての郷土愛育成や農水産業活性化にとっても大切である。

学校給食で、「飯南茶」を飲めるようにし、「松阪牛の日」をつくり、また秋には「**地元の新米**」を出すなど、季節や地域の理解を通じて味覚と感性を養う機会をつくる。

23 働く元気…「実践的起業家教育」と「15歳までのハローワーク教育」

これからの松阪市にとって、多くの「**起業家マインド**」を持った若者の育成が大切である。また、将来の職業選択をする上での実践的な職業体験の場を、教育現場が提供することが必要である。地域の自営業者や商工会議所等との連携の下で、現場に入っでの体験をさせてもらうとともに、起業家精神を養う課外授業なども取り入れる。また、各種企業・団体等との連携で、様々な職種の方々との交流や職業体験の機会を持てるようにする。

24 「縁結び」のお手伝い…少子化対策の「縁結びプロジェクト」

「**縁結びプロジェクト**」を推進し、市主催の「合コンパーティー」を積極的に行う。担当部局で、市民に対し結婚希望の登録者を募り、双方の合意のもとに情報交流が積極的に行われる体制をつくる。市がキューピットとなり「縁」が結ばれば、少子化対策のみならず、「松阪市」への愛着も深まり、若者の松阪離れの歯止めのひとつにもなる。

<産業・経済>

ふるさとの宝を守ろう！ 「松阪ブランド」を支える 生産者の皆さんを後押しします。

松阪にはたくさんの「地域のブランド」があります。

また、地域や企業独自の取り組みを進めて、様々なやりかたで松阪を活性化させている団体もたくさんあります。

市と企業、地域、市民団体などがしっかりと連携するなかで、より「松阪らしさ」を出せるような活動に、市が全体として支援していく必要があります。

松阪の空気と水を守ってきた林業もいま衰退しつつありますが、森林の持つ多様な役割をしっかりと評価をして、「まつさかの木」を使い、守ることが必要だと思っています。

農業と漁業は「松阪のいのち」を守る大切なものであり、地域の食べ物を地域で食べられる幸せを守れるような政策を創っていく必要があります。



25 「いのち」を守る原点です…農林水産業の振興

「いのち」を守る基本となる、**農林水産業の活性化**は地域にとって不可欠である。次世代を担う人材育成、地域自給率の向上、商工との連携による販売経路の拡大、競争力の強化などを各種団体の連携を通じて積極的に行っていく。

林業に関しては「**まつさかの木**」の利用促進を積極的に推進して、地域産材利用住宅に対する補助の強化と、公共建築に対する地域産材の利用を積極的に進める。また、学校の机や椅子に地域産材を用いることで、教育の場においても森林環境保全を肌で感じてもらう。また、中長期的な広葉樹林の育成と、水質保全の視点から林業関係者と漁業者との連携も積極的に進める。

26 「動物のいのち」を考えよう…獣害対策と動物愛護

地域での、サル、シカ、イノシシの**獣害被害**は極めて大きく、住民の生活を脅かしている。短期の対策としての電気柵だけでなく、中・長期的な追い払い策も強化しなくてはならない。一方で、「いのち」を食べなくてはならない人間の宿命を、教育としてしっかり行い、「いのち」の大切さを学ぶ機会の創設や、捨て猫・捨て犬対策など**動物愛護事業**も併行して強化していく。

27 職員みんなセールスマン…「地域ブランド売り込みプロジェクト」

松阪には「松阪牛」だけではなく、「飯南茶」、「松阪もめん」など多くの地域の歴史と文化に根付いた産品がある。さらに、今後も地域ブランドの育成だけではなく、発見、創出をしていく必要がある。

そのために、市長を先頭に、職員全体が「**地域ブランド**」の**セールスマン**となり、各方面に対してセールスをかける。

「営業本部（本部長：市長）」を設置し、経済関連部署を別名「営業部」として、常にセールスマンの感覚、発想で営業努力をし「地域ブランド」を創り出し、売り込んでいく。「地域ブランド」の創出、売り込みとともに、なにより「松阪市」を県外、海外に対してもアピールしていく体制を松阪市の職員全員でつくりあげる。

28 日本一きれいな川に…「櫛田川流域プロジェクト」を進める

清流櫛田川を地域の大切な資源として活用する。流域自治体、国、県、各種市民団体が強力に連携して、**水質日本一を目指す**とともに、その櫛田川流域のPRに務める。流域の鮎、あまごのほか流域関連産業の育成を推進する。

29 自助努力を最大限サポート…「官民連携」で地域経済体制強化

市長と経済団体・金融機関・各企業との定期的な懇談を行っていく。また、市の職員と民間企業従業員とが交流する体制をつくり、市の各部署が民間企業のニーズや現在の経済環境を肌で感じながら、全庁挙げての地域経済政策の立案・推進を行い、民間企業の**自助努力を最大限サポート**できるようにする。

30 地場産業を力強く…「松阪産業振興機構」（仮称）の設立

地元企業の連携などを支援するために、「**松阪産業振興機構**」（仮称）を設立し、民間企業から営業や経営の専門知識を持つ人材を迎え入れ、地場産業の育成・競争力強化を図る。市と地元経済団体職員、民間企業出身者が運営・コーディネートを行う。スタッフが地元企業を訪問し、異業種間のジョブマッチングを行うほか、各種支援策の提案や県外企業の誘致活動なども積極的に行う。

31 「公平・公正・公開」が原則…入札制度改革と大規模随意契約の禁止

入札に対し、関連業界のみならず一般市民・企業からの多様な意見を反映させ、「公平・公正・公開」の**透明な入札制度**をつくる。原則として大規模な随意契約は禁止とし、相応の理由があるときには、市民に対してその理由を文書で説明するなどの手段で透明化する。また、不適格業者の排除にむけ、徹底したチェックを行っていく。



<文化・観光・環境>

駅西再開発は、 市民の声を基本に再起動。

駅前にホテルやマンションを建てるような「安易な発想」の下での街づくりではなく、市民の方々の「多様な意見」を取り入れた次の世代に誇れるような魅力的な街づくりをしていく必要があります。

現在進んでいる駅西再開発計画は一度白紙に戻し、改めて「市民の声」を重視した、次の世代に恥ずかしくない内容の、中心市街地活性化のプランを迅速に創らなくてはなりません。

松阪駅に降りたときに、「松阪ってええ街やなあ」と思わせ、ちょっと歩いてみたいなと感じさせるような取り組みが必要です。松阪が持つ歴史や文化、そして美しい景観を多くの方々に感じてもらい、また、訪れた方に「また、松阪に来たいわ」と思わせなくてはなりません。

また、合併後、旧飯南郡や旧一志郡の良さが薄れていっております。地域の良さは地域の方々が一番よくわかっており、地域振興局の機能をより強化するとともに、地元の方々の声をしっかりと聞いて反映させる市政を行わなくてはなりません。

32 合併地域のしわ寄せは、振興局の機能強化でプラスに転化

地域のことは地域に暮らす人が一番よく理解している、という視点から「住民の声」に近い地域振興局の機能を強化し、「住民の声」を直接聞き、その声をその地域独自のあり方で政策に反映できるシステムをつくる。「地域行政のプロ」を振興局にしっかりと配置し、本庁の許可を得なくても進めていける裁量権を拡大し、本庁との役割分担を明確にする。

33 「高速船支援」よりも「路線バス支援」を優先!

松阪市内の多くの地域が日々の生活の足に困っている中で、飛行機で他の地域に行く為の高速船への補助を優先するような政策のあり方は言語道断である。まずは各地域における路線バスの充実と不採算地域には利用者の求めに応じられる小型のデマンド・バスの運行を補助して**地域の足を守る**。

34 「素敵に歩ける」街づくりと「松阪らしさ」のある地域づくり

約100億円を使ってホテルやマンションをつくるような安易な「都市づくり」を行うのではなく、「**田舎まち**」でもいい、「**松阪らしさ**」が出せ、歴史と文化にあふれた松阪の町並みを今後もしっかりと保存するとともに、駅前からふと歩きたくなるような街づくりを行うことが必要である。駅前で落ち着いた公園や、車を停めて移動し易い自転車タクシーやレンタサイクルの整備など「市民の声」を謙虚に聞いて、迅速にこれまでの計画を見直し、新しい案を実行する。また、看板・色彩規制など地域に応じた対応策を強化し、元来持つ景観を活かしたうえでの統一感のある街づくりを推進する。

35 お客さんいらっしゃい…「観光交流戦略会議(仮称)」で知恵を集める

市役所内に「観光交流部」を設置し、文化、観光、会議・合宿の地域誘致、地域ブランドプロモートを一元化し、集客・交流事業を総合的に取り扱うしくみを創る。また、市の観光協会に対し各種会議や合宿の誘致・開催のノウハウを蓄積できるよう機能強化のサポートをする。一般市民、専門家を交えた「**観光交流戦略会議(仮称)**」を設置し、短期から長期までの観光戦略計画をつくり、一時的な観光だけでなく、持続的な交流も含めた計画策定と実効性の確保に向け全市一体で取り組む。

36 テレビ、映画に続々登場…マスメディア「松阪プロモーション作戦」

様々なメディア関連業界などと連携し、映画やドラマ、CMの撮影や小説や漫画、アニメの**舞台となるようプロモーション**を行う。また、ロケ地となるような場所の景観を整備し、観光戦略の一環として全面的な行政のバックアップを行うとともに、市長が様々な機関・業界に積極的に働きかける。

37 まずは近くを集中的に…名古屋市へ集中PR

限られた予算のなかで、「松阪市」を最大限にPRするには「**選択と集中**」を図ることも大切である。大阪、東京にPRを分散せず、TV放送圏も共通する「**名古屋**」に**集中したメディア戦略**や特産品販売などのアンテナショップの開設を積極的に行う。

38 松阪は歴史と文化も自慢です…「松阪学」の確立

松阪市には多くの歴史的・文化的な産物や物語、人物史が数多く残っている。まだ埋もれている部分や市民の多くに知られていない部分を含めて、体系だてて整理し、「**松阪学**」を**確立**する。また、「新・松阪市史」を編纂し、旧一志郡、旧飯南郡の歴史も含めた上での歴史・文化の流れを後世に残していく。

39 温故知新、古民家の価値を再発見…古民家再生プロジェクト

市内の古民家を、その良さを活かした形で積極的に利用できるようにしていく。データベースとして収集・登録を行うとともに、保存への行政の補助、専門家の助言ができるよう「**古民家再生プロジェクト**」を進める。古民家の良さを活かした店舗活用への補助や、地域の必要性に応じた利用を推進する。

40 「環境」は地球人の課題…地球規模で考え、地域レベルで行動する

ごみ減量と資源循環型社会への転換をさらに進め、イベント・講演会などを通じた啓発活動の推進を積極的に行い、「**環境先進都市松阪**」を目指す。
事業系ごみ減量を制度的に進める事業所への補助を実施する。

県議会の場で「約束」を実行してきました

山中光茂の県議会での活動と実績

女性の「いのち」を守る、がん対策の充実へ

・乳がん、子宮がんの松阪地域の検診率の低さを指摘し、県として地域の検診率の格差は「いのち」の格差につながるとして、検診制度の充実と啓蒙活動の強化を提言。

環境についてこのように提言

・地域の林業を守るための環境森林税の積極的導入と使い方を提言。森林保全は地域産業を守るだけでなく、街で生きる人々にも影響があると提言。森林環境税をどのように使うべきかを具体的に提言して、次の世代まで「緑の文化」が続く方法を議論した。

- ・「小さいいのち」を大切にする動物愛護推進を提言。
- ・障がいのある方が安心して働ける小規模作業所のあり方について提言。
- ・透析患者の「いのちと生活」を守る体制づくりについて。
- ・三重県のエネルギー対策やCO2削減のあり方について。
- ・病院のベット数削減に対しての県としての取り組みに提言。
- ・医療従事者、介護従事者の確保について。
- ・障がい者の入院食事代の補助取り消しに対しての反論。
- ・障がい者の地域防災体制づくりについて。
- ・農業者の次世代育成について。
- ・後期高齢者医療費負担見直しの国への意見提出に対して、会派を代表して討議を行う。

●三重県議会で所属した委員会等

健康福祉病院常任委員会、県立病院等調査特別委員会、予算決算常任委員会、広報広聴委員、福祉医療助成制度改革検討会議委員、防災農水商工常任委員会副委員長、救急体制整備特別委員会

「いのち」の優先順位にこだわりました

昨年、県行政が障がい者、乳幼児、一人親家庭の医療費の当事者負担を増やす事を提示してきました。

財政が厳しい事を理由にして、「痛みが大きい人」や「次代を担う人」への医療費の負担を増やす事に、私は疑問を感じ、半年間議場で行政の方々と対決することになり、最終的には、当事者負担増は取り消しとなりました。「いのち」の優先順位を議員として守れたという充実感が残った活動でした。



県議会に登壇しての質問



仁柿小学校での出前授業



高齢者施設を訪問

山中光茂のプロフィール

昭和51年1月15日生まれ やぎ座のAB型。

現在は、妻と二人で下村町のアパートに住む。松阪市大黒田町で生まれ、小さいころは父のふるさと飯高町森地区の自然の中でよく過ごす。三重高、慶應大法学部、群馬大医学部(学士編入)を経て、松下政経塾に入塾。NPO法人少年ケニアの友に所属し、医療担当スタッフとしてケニアにおいてエイズプロジェクトを立ち上げる。また医師として、南アフリカやジンバブエ、タイなどの医療体制の調査・研究活動も行う。その後、衆議院議員秘書等を経て、「1%の痛みへの挑戦」という公約の下で県議選に出馬し15,613票を得て当選。県議会では、医療福祉体制整備や、障がい者の福祉向上についての問題等を中心に行政へ提言。本年度は、防災農水商工常任委員会副委員長として、農業問題や中心市街地活性化などについて激しく議論を行ってきた。

100キロマラソンを完走するなど、体力と意思の強さには自信があり、お笑い番組と映画を愛し、松阪しょうがい踊りが大好きな「気さくな行動派」。

市民みんなで松阪の未来を創る会

515-0063 松阪市大黒田町221-1(山中光茂「好縁会」事務所内)

Tel.0598-22-1500 Fax.0598-22-1501

E-mail life@yamanaka-mitsushige.com

ホームページは「山中光茂」で検索してください。ブログもつくっています。

※視覚にハンディをお持ちの方には、テープ版をご用意しております。事務所へお申し付けください。



いっしょに松阪を変えましょう。「変えなあかん」の仲間を募っています。